

第7回学術交流連携講演会

アーカイブされた情報を読み解く

生態学と  
歴史学の  
最先端

12/17 **土** 14:30~16:45  
入場無料・申込不要

だて歴史の杜 カルチャーセンター 2階 視聴覚室

鹿野 秀一氏  
東北大学・東北アジア研究センター 准教授

西シベリアの湿地生態系  
—食物網内でたがいに結びつく生物たち—

友田 昌宏氏  
東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門 助教

岩出山伊達家の北海道開拓移住  
～吾妻家文書の調査から～

主催：伊達市噴火湾文化研究所・東北大学東北アジア研究センター 協力：かけはしの会  
問合せ：伊達市教育委員会生涯学習課文化財係 電話0142-23-3331(内514)

# アーカイブされた情報を読み解く - 生態学と歴史学の最先端 -

## 西シベリアの湿地生態系 - 食物網内でたがいに結びつく生物たち -

西シベリア南部の景観は、草原や牧草地とシラカバ林が混在する中に、多くの湿地が点在する。そのような湿地生態系の生物たちは、食う・食われるの関係や宿主・寄生者の関係でたがいにつながっている複雑な食物網を形作っている。本公演では、西シベリアのある食物網内でどのように生物たちがたがいにつながっているかを、安定同位体比分析という手法で進めている研究について紹介する。



鹿野 秀一 氏

東北大学・東北アジア研究センター 准教授

1954年東京生まれ。東北大学大学院理学研究科博士課程後期修了。理学博士。現在は東北大学東北アジア研究センター准教授。専門は生態学。

## 岩出山伊達家の北海道開拓移住 ～吾妻家文書の調査から～

明治元年（1868）の戊辰戦争後、仙台藩は朝廷から62万石から28万石という大幅な削封の処分を受けました。そのしわ寄せは伊達家の親戚筋にあたる一門にまで及びます。一門の家臣たちは家禄の支給を打ち切られてしまうのです。ここに、岩出山伊達家当主邦直は北海道開拓を出願し、旧臣たちとともに北の大地へ渡ります。北海道で彼等を待ち構えていたのは、苦難の連続でした。吾妻謙は、邦直を支えて開拓に中心的役割を果たした人物です。移住時はまだ20代の青年でした。今回はその吾妻家に残された史料をもとに岩出山伊達家の北海道開拓移住について考えます。



友田 昌宏 氏

東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門 助教

1977年生まれ。1999年、早稲田大学教育学部卒業。  
2008年、中央大学大学院文学研究科日本史専攻博士後期課程修了。博士（史学）。  
中央大学兼任講師、早稲田大学大学史資料センター非常勤嘱託、  
町田市立自由民権資料館学芸員等を経て現職。